

ニホンナシの収穫期予測

<気温経過と生育>

記録的な暖冬により生育は早まり、ニホンナシ主要品種の満開期は平年より11~13日早くなった。試験場内では、生態調査の記録が残る過去46年間で最も早い開花になった。

4月15日以降は気温の低い日が続き、果実の肥大は停滞した。

<収穫期予測>

幼果期間（満開後30日間）の平均気温を見ると、「幸水」は平年より1.02℃低く、「豊水」及び「南水」は1.00℃低かった。

満開後30日間の平均気温から推定した各品種の収穫始めを表1に示した。今年度は満開期が早く、また満開後30日間の気温が低かったことから、成熟に要する日数はかなり長くなっており、収穫始めはほぼ平年並みの予測となっている。

なお、この予測日は満開後30日間の平均気温を基にした予測であり、今後の気象状況により果実の成熟状況も変化するので、今後の気象と生育の経過を注視していただきたい。

表1 ニホンナシ主要品種の収穫始期の予測 (南信農業試験場、2021年)

品 種	満開日		満開後30日間の平均気温(℃)		収穫始め				
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年 (予測)	平 年	平年差	昨年実測	昨年差
幸 水	4/12	4/23	12.4	13.4	8/23	8/23	+ 0	8/21	+ 2
豊 水	4/7	4/20	11.5	12.5	9/8	9/7	+ 1	8/26	+ 13
南 水	4/7	4/18	11.5	12.5	9/17	9/17	+ 0	9/15	+ 2

予測値は満開後30日間(満開日含む)の平均気温(南信農業試験場内)から算出した(ーは早い、+は遅い)。
平年値は平成13年~令和2年(2001~2020年)までの20年間の平均値。
昨年「豊水」の収穫始めが早いのは、果実のみつ症発生により収穫始めを早めたためである。
この予測は2021年5月13日現在の予測であり、今後の気象の推移により変動する。

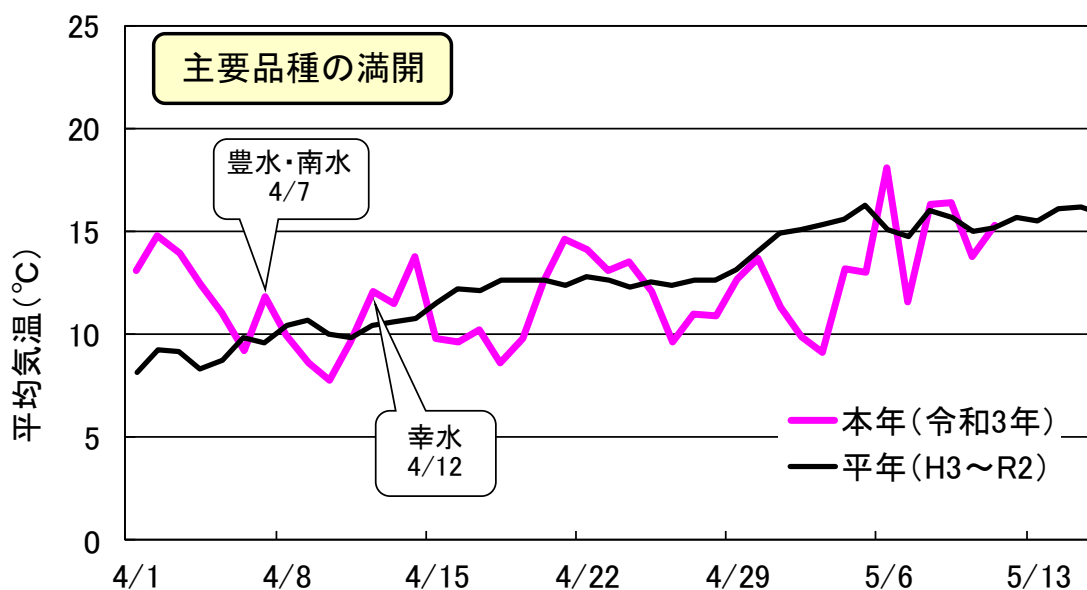


図1 開花~幼果期の平均気温の推移(南信農業試験場)